

2020年度『蔵前特別賞』・『蔵前ベンチャー賞』 授与式・受賞記念講演会

一般社団法人蔵前工業会（東京工業大学同窓会）はベンチャーの育成を目的に2007年に「蔵前ベンチャー賞」を創設し、以来、東工大・蔵前関連の有望ベンチャーの発掘・表彰を行ってきました。また、2009年から「蔵前特別賞」を設置し、優れたベンチャーや顕著な社会貢献が認められる個人および企業・団体を表彰しています。

今年度の「蔵前特別賞」・「蔵前ベンチャー賞」の授与式と受賞記念講演会は、2020年11月25日（水）に東工大蔵前会館・くらまえホールで開催され、新型コロナウイルス感染防止対策としてZoomによるオンライン配信を行いました。なお、今年度は、「蔵前ベンチャー賞」の受賞企業は4社で、「蔵前特別賞」の受賞者はありませんでした。

今年度の授与式では、井戸清人審査委員長から審査結果の報告と、ご来賓として、益一哉学長と文化功労者に選ばれた滝久雄蔵前工業会名誉相談役からご挨拶をいただきました。（授与式・講演会の参加者は76名。内Zoom参加46名、会場参加30名）



前列左より受章者 綾部 貴淑氏、松原 聖氏、三橋 利玄氏、川原 俊介氏、谷岡 明彦氏、青山 はるか氏（後藤 匠氏代理）
後列左より 益 一哉東工大学長、井戸 清人蔵前工業会理事長、滝 久雄蔵前工業会名誉相談役
当日欠席者 左上：小池 秀羅氏、高橋 光弘氏 右上：後藤 匠氏、中村 文明氏

1. 『蔵前特別賞』・『蔵前ベンチャー賞』授与式

(1) 2020年度蔵前特別賞

本年度の受賞者はありません。

(2) 2020年度蔵前ベンチャー賞

企業名, 受賞者	受賞理由
<p>(1) KIYOラーニング(株) 代表取締役社長 綾部 貴淑 氏 1996年 東工大情報科学科卒</p>	<p>2008年創業、2010年会社設立。東工大発ベンチャー。スマホの出現と同時にその普及を見越し、時間や場所の制約なく受けられるオンライン教育サービスを実現した。登録会員は順調に伸び、資格取得講座「STUDYing」の事業拡大を達成、新規事業の企業内研修「AirCourse」の事業基盤を構築した。2020年7月に東証マザーズ上場を果たす。</p>
<p>(2) アドバンスソフト(株) 代表取締役社長 松原 聖 氏 1982年 東工大数学科卒, 1984年 修士 執行役員 三橋 利玄 氏 1979年 東工大化学工学科卒 代表取締役会長 小池 秀耀 氏 1975年 東京都立大 理学博士</p>	<p>2002年創業。シミュレーションソフトの自社開発力を有する計算科学の専業会社として創業。社員105人の内、技術者80人(博士号取得者50人)の技術者集団。事業対象は、エネルギー(含む原子力)・自動車・製造業、環境・防災・医療分野と幅広い。多種多様な顧客課題を自社国産ソフトで解決し、継続的に日本の産業競争力強化に貢献している。</p>
<p>(3) (株)Zetta 取締役CTO 谷岡 明彦 氏 東工大名誉教授 1975年 東工大博士修了 会長 高橋 光弘 氏 1980年 広島大卒 代表取締役社長 川原 俊介 氏 1970年 獨協大卒</p>	<p>2011年創業。東工大発ベンチャー。NEDO受託研究「ナノファイバーPJ」の研究成果の事業化を目指して創業。高速高温エアを利用した新紡糸法「Zetta-Spinning法」の開発に成功し、安価なナノファイバーの量産を可能として量産技術競争において世界をリードしている。ナノファイバー製造装置の医療・工場用フィルター、高捕集性能マスク、断熱材、コンクリート補強材等多方面の用途への活用展開を図る。</p>
<p>(4) (株)Libry 代表取締役CEO 後藤 匠 氏 2012年 東工大社会工学科卒 取締役 Tech Lead 中村 文明 氏 2013年 東工大情報工学科卒</p>	<p>2012年創業。東工大発ベンチャー。中高校生向けデジタル問題集「Libry」を開発。学習データを活用し、興味・能力・状況に合わせて、適切な指導や情報を適切なタイミングで提供する「学習エコシステム」の構築を目指す。新型コロナで加速する教育のデジタル化を背景に、生徒・教師双方に効果的な学習プラットフォームで、急速な事業拡大を達成している。</p>

2. 「蔵前ベンチャー賞」受賞記念講演 オンライン教育事業の歩みと今後の展開

KIYOラーニング株式会社 代表取締役社長 綾部 貴淑 氏



当社は2008年に事業を開始して以来、世の中のテクノロジーの変化を取り込み、学習を革新することで成長をしてきました。

事業を思いついたきっかけは、前職中に、中小企業診断士の資格を取ろうと、大手スクールの通信講座を購入したことです。数十万を払って届いたのは、大きな段ボールの中に大量の冊子が入ったものでした。どこからどのように勉強したら良いのか分からず、すぐに挫折をしてしまいました。

その時に思ったのが、ITを活用すれば、もっと「学びやすく、分かりやすく、続けやすい」学習サービスを作れるのではないかと。ということ。その後、勉強法を工夫しながら再チャレンジして資格に合格できたので、その経験を活かして音声講座を開発し、当時流行していた携帯音声プレーヤーで聴ける講座としてWebで販売開始しました。

その後徐々に受講者を増やしていきましたが、世の中ではスマートフォンが急速に普及してきました。そこで、スマートフォンで学びやすい学習システムを自社で開発しました。さらに、YouTube

を始めとする動画配信が普及する中、当社でも動画スタジオを作り、音声講座から動画講座に切り替えていきました。これにより、さらに受講者が増えました。最近では、AIを使った学習の個別最適化に取り組んでいます。

さらに、クラウドサービスが普及する中で、当社でも社員教育クラウドサービスを開発し、法人教育事業に参入しました。直近では、コロナ禍によって、集合研修による社員教育が難しくなっています。こういった企業様でも、社員教育が効率的にできるようなサービスを提供していきます。

このたびは、大変栄誉のある賞をいただき、ありがとうございました。今後もご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



STUDYingの受講イメージ

3. 「蔵前ベンチャー賞」受賞記念講演 21世紀の産業革命 - コンピュータシミュレーション -

アドバンスソフト株式会社 代表取締役社長 松原 聖 氏



松原 聖氏



三橋 利玄氏



小池 秀耀氏

アドバンスソフトは、シミュレーションのソフトウェアを開発・販売する計算科学の専門会社です。2002年に文部科学省プロジェクト「戦略的基盤ソフトウェアの開発」を契機に創業しました。このプロジェクトは、海外ソフトウェアで席卷さ

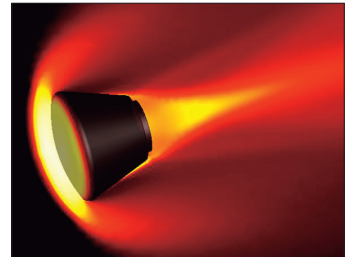
れている日本産業界を憂い、国産ソフトウェアによる日本の産業競争力強化・人材育成を目的としていました。現在、創業から18年経過し、社員105名のうち技術者80名（博士号取得者50名）の技術者集団です。

歩んできた道は平坦ではありません。特に、リーマンショックと国プロ終了が重なった時期は、仕事が減り、給料を削減し、社員数も激減しました。しかし、会社設立の趣旨を理解した社員が会社を支え、創業者のリーダーシップで会社を存続させました。この社員たちは現在の会社中枢です。

当社の特徴は、ナノからマクロ分野までの幅広い分野での事業展開とソフトウェア開発力です。日本では依然として海外ソフトウェア優位を打破できていません。しかし、お客様のニーズを的確に把握し、課題を解決することで事業を拡大してきました。海外製ソフトウェアではできないことを私たちが実現し、実用化した技術を自社ソフトウェアに蓄積することで事業展開してきました。さらに、国の研究開発機関や大学の研究成果の産

業界への普及事業を通して最先端技術を取り込んでいます。

industry4.0等の背景のもと、今後ともマーケットは拡大します。私たちには、優秀な人材を獲得する必要があります。この受賞をきっかけに、アドバンスソフトの名前を広く知ってもらい、意欲のある優秀な若い人材を採用・育成し、さらに事業拡大し、世界的に知名度の高い企業を目指しています。



再突入物体周りの極超音速流の可視化 (Advance/FOCUS-i)

4. 「蔵前ベンチャー賞」受賞記念講演 ナノファイバー大量生産方式の成功と事業展開

株式会社Zetta 取締役CTO 谷岡 明彦 氏



谷岡 明彦氏

1. はじまり

「先生大変です。」と学生が部屋に飛び込んで来た。手にしたSEM写真には直径約50nmのPEGのナノファイバー(NF)が写し出されていた。理研やパナソニック(高橋光弘)と共同でESD法によるバイオチップの研究を行っていた時である。これは凄い発見と奮い立ったが、1934年に米国でESP(電界紡糸)法として特許化されていた。しかし生産性が極めて低いことが普及のネックになっていた。その後、本学先輩の故本宮達也氏(元日清紡)のご尽力で、2006年にNEDO「先端機能発現型新構造繊維部材基盤

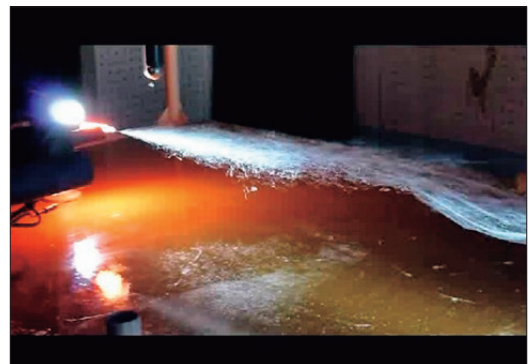
技術の開発PJ」(ナノファイバーPJ)が始まった。谷岡がPL、高橋がGLとして大型ESP装置開発を担当した。

2. (株)ゼタのスタート

2011年3月にPJが終了し、同年11月11日に高橋は大型ESP装置をさらに高性能化するために(株)ゼタを立ち上げた。2012年7月に東工大発ベンチャー企業65号の称号を獲得し谷岡はCTOとして加わった。開発は順調に進んだが、有機溶媒の回収コストや安全性の観点から2014年に開発を中断し、熔融Zetta方式の開発に着手した。PP、PE、PET、PLA等の熱可塑性樹脂を使用できる点が特長である。本方式は2015年米化学会でベストプレゼンテーションアワードを受賞した。

3. ゼタからZettaへ

2016年にはZetta方式による量産機開発に成功



紡糸風景

した。その後国際化を視野に社名をZettaに変更し、川原俊介を社長に迎え営業にも力を入れ始めた。2020年3月にはコロナ対策マスクの製造を始めた。5月には1時間あたり100kg製造可能な新型

ノズルの開発にも成功した。今後先進コンクリート補強材 (AECC)、断熱材、先進水処理材、農業用資材等の開発に着手する。

5. 「蔵前ベンチャー賞」受賞記念講演 教育に「なめらか」な変革を

株式会社Libry 代表取締役CEO 後藤 匠 氏



後藤 匠氏

株式会社Libry (リブリー) は、代表取締役CEOの後藤と取締役Tech Leadの中村が東工大在学中に創業した教育系の学生ベンチャーです。PC/タブレット端末向けの学習サービスを開発しています。今でこそ「1人1台PC」と言われていますが、後藤と中村は、学習者用PCの普及率がまだ15%程度だった2012年に「いつか必ず学校にPC/タブレットが1人1台導入されるタイミングが来る」と確信し、起業しました。

当社の開発しているスマートに学べる問題集「Libry (リブリー)」は中高生向けの学習サービスです。教科書会社等と提携し、教科書や問題集をPC/タブレット向けにデジタル化し、「問題検索」や「類似問題のレコメンド」などのスマートな機能で学習をサポートします。2017年のサービス提供開始から約3年で全国500以上の学校に提供しています。

「リブリー」のポイントは、「なめらか」であることです。教育現場の様子を観察し、先生や子どもたちの声を聞き、「変えるべきところ」と「変

えるべきでない」ところを見極めてサービスを開発しています。そのため、ICTを使ったサービスの導入に心理的障壁がある先生にも受け入れてもらいやすく、スムーズに学校現場に浸透させることができています。

学校や家庭で子どもたちが「リブリー」を使って学習すると、学習履歴ビッグデータが蓄積されます。私たちは、その学習履歴ビッグデータから知識習得プロセスの解明や最適化を進め、一人ひとりの学びや興味関心にあわせて教材や情報をつなげていくことを目指しています。子どもたちが新しい知に対するワクワク感を持ちながら学び、一人ひとりの夢が実現できるような社会に向けて尽力してまいります。

この度は、このような名誉ある賞をいただき、うれしく思います。新しい知への好奇心を育み、素晴らしい仲間と出会えたこの学び舎に、心より感謝申し上げます。



スマートに学べる問題集